

講演「渋谷カルチャーディストリクト構想～取組状況と今後の展望～」

【司会】

続きまして、渋谷区 国際都市戦略特命部長の宮本 安芸子様から渋谷カルチャーディストリクト協議会の取組みについてのご発表をいただきます。

それでは、宮本様どうぞよろしくお願いたします。

【宮本氏】

よろしくお願いたします。御紹介にあずかりました、渋谷区の国際都市戦略を担当しております宮本と申します。今日は足元悪い中、お越しいただきましてありがとうございます。今回、東京都さんに採択いただきましたカルチャーディストリクト協議会の構想と今の進捗というところを20分でお話ししようかなと思っておりますので、よろしくお願いたします。

この写真ですね、大体何年頃の渋谷かなっていうのをわかる方いらっしゃいますか？大体ですね、70年前くらいの渋谷の風景だそうです。この時代からおそらく夜の街としても、色んな物語が始まったのかなと思いますけれども、やはりこの渋谷っていう土地は本当に100年くらいで大きく発展した街というふうに思います。そういう意味でナイトタイムエコノミーとともに新しい歩みを遂げていたのかなという風を感じております。

だいぶ風景もがらっと変わって、そしてまたこの先どんどん変わっていくこういう渋谷でどういう風に、ここに住む人・暮らす人・遊ぶ人・学ぶ人、色んな人たちがここで営みをしていくのがいいのかっていう人の考えを中心に色々考えていけたらなという風に思っています。今日のアジェンダなんですけれども、まずは観光課題、今現在、我々が困っていることというところから始めさせていただいてプラス強みを分析したいと思います。この強みを生かしてどういう構想をやっているかというところで構想の今の進捗しているところをお伝えしながら、その後の未来の発展に向けて、どういうことを考えていこうかというような流れにしたいと思います。一応ですね、今日、他の地域の皆さんも結構いらしていただいているという風に聞きましたので、採択エリアとして一步を踏み出しておりますが、色々運営課題も共有しながら最後収めたいと思います。

御存じのとおり、渋谷の観光課題は、やはり観光客の集中というところがあります。そして、集中した時にですね、飲酒を伴う、特に路上で飲酒をしてしまう方が非常に多くなってしまったり、それに伴って喫煙やポイ捨てが発生したりということが街の美観を損ねてしまうというのが大きな課題になっております。ここで対策としてさっきのハロウィーンもそうですけれども、まずは「来ないでください」と言うのは言いたくないので、「悪いことをしないでください」「マナー違反は控えてください」というようなメッセージを送り続けています。特にですね、条例改定などをしまして、飲酒の禁止これをやっちゃいけないよ、あれをやっちゃいけないよって言い続けるのは、ナイトタイムのメッカとしては非常に心苦しいんですけども、今のところ、来ないでください、集まらないでくださいとか、路上で飲酒しないでくださいという禁止事項を並べているというような状況になります。

ただ、皆さんツイッター（X）なんかでも非常にお声をいただくんですけども、渋谷それでいいのかというところが我々突き付けられた課題かなと思っております。ただ、集まらないでとか、そういったことを

言い続けてしまったら、ここで根付いてきたカルチャーを止めてしまうようなことになっては大変だなという風に思いますので、これを逆手にとって、こうやって注目をされるという状況や楽しみたいという人達の熱気を、逆にポジティブに転換するというのをチャレンジしてみたいというところで、今回採択いただいたかなという風に思います。

ただ、簡単じゃないですよ。どんな人に来てもらいたいのか、どういう行動をしてもらいたいのかってそんなにコントロールできるものでもないの、これをどういう風に変革していくかというところを今、地元の皆さんとか、あるいは協議会の皆さんでお話を深めていっている最中になります。

実はですね、コロナ禍で調査を行っていました。今まで自治体は、民間の事業者さんのどういう事業者があって、ナイトタイムのベニューがどういうところに広がってるかっていうのはあまり把握できてなかったんですけども、コロナでかなりダメージがあったということで、少し状況を分析するために調査を行いました。これが2022年なんですけれども、そこでですね、改めて渋谷のナイトカルチャーを支えているのは、文化とかエンタメの施設の存在だなというのを改めて感じる事ができました。

これも大きなホールがたくさんあるわけではなくて、小箱と言われるDJバーだったり、ミュージックバーだったり、クラブもそうですけれども、ライブハウスなどそんなに大きくないハコが点在しているところに、色々なジャンルのプレーヤーが集まって演奏しているということが非常に多様で面白いカルチャーの源泉なんじゃないかなということを感じておりました。これを今回、ナイトタイムのカルチャーを推進していく上で、改めてコロナ以降今どうなってるかというのを調査しております。今、アンケート調査で各ベニューの皆さんに手伝っていただいてアンケートの集計に取り組んでいるというところでございます。その大体150ぐらいあるベニューの魅力っていうのが強みの一つではあるんですけども、そういった150のエンタメ施設の魅力は世界に結構知られているというのが分かってきました。やはりミュージックバーとか渋谷のカルチャーっていうのをめがけて、たくさんのテクノロジー産業、あるいはクリエイティブ産業の方が集まっているというのが数字でも出ています。スタートアップも非常に多いですし、外資のテック産業もたくさん集まってきましたし、ビットバレーと呼ばれる日本のテック産業もたくさんあって、ここはやっぱり若者のカルチャーがある場所だからこそ、そういう刺激を受けながら働きたい人の需要というのを喚起しながら発展したかなという風に分析してますので、これを強みにして、また活動をしていけたらなという風に思っております。

そして、もう1個の強み、先ほどのお話にも出ましたけれども、発展し続ける街なわけですよ。なのでこちらは東急さんのYouTubeからお借りしましたけれども、こういった形でどんどん街は発展していく。そしてハコはどんどん入れ替わっていく。じゃあ、ここの中でどうやって営みを増やしていけるのか。ここは、我々、カルチャーディストリクト協議会としても観光協会さんとか渋谷区としてもですね、真剣に考えていきたいなという風に思います。やっぱりこんな素敵なハコができた時に誰もいなかったらかなり寂しいなと思いますし、ここでカルチャーが生まれなかったら日本のどこで生まれるんだろうというそういう危機感もありますので、ここをどうやって本当に中身のあるものにしていくかということを考える。そういった営みを地域の人と一緒にやっていくという座組を作るということに非常に意義を感じております。

ということで、この辺の強みを生かしてカルチャーディストリクト構想ということで、渋谷の夜から国際都市としての固有の文化政策を作ってみようというような取り組みになっています。アンダーバー引いたところがメインになりますけれども、まずは地域の文化施設、ナイトタイムの施設を、文化的な資源として

調査をして、きちんと再定義すること、そしてそこで育まれているカルチャーというのを見える化していこうというような形で、MAP やカルテみたいなものを作って公開していこうという風に思っています。それ以降、また後ほど細かくお話ししますが、渋谷駅周辺からできるだけこう坂を上っていただきたいという風に思っています、うまくその文化的なネットワークを可視化して導線を誘導していこう、回遊をさせていこう、というようなことを取り組みとしてやっていきたいという風に思っています。

この辺の取り組みをやりながら、文化政策としてのビジョンをたたき台という感じにはなると思うんですけども、作っていくというのを今回の事業として取り組んでおります。具体的にどんなことをやり始めているかというところをお知らせしたいと思うんですけども、これは昨年の秋、「SOCIAL INNOVATION WEEK SHIBUYA」の中で渋谷の環境美化、清掃に関するワークショップを行いました。たくさんの地域の方にいらしていただいて、こういったワークショップを進めています。

ただ、こう大型のものばかりやってると意見がなかなか吸い上げられないので、やはり小さな地域ごとのヒアリングなんかも今推進をしています。実際、こういうのをやった方がいいなと思ったのは、このウエストミンスター区っていうイギリスの地域になりますけれども、そこでは「Westminster After Dark」というのを立ち上げていまして、実際にその地域としてナイトタイムをどういうふうに構築していくかというのを戦略として立案しているというようなケースがあります。こういったケースの中で地域の人とやりとりするオンラインのプラットフォームをつくったりとか、あるいは「ステーキホルダー・アSEMBリー」という形でステーキホルダー同士が集まって協議をするということが次の夜間経済をどうするかという合意形成にも非常に役立つということで、こういった取り組みを渋谷でもやってみようかなという風に思っています。

そして今後ですけども、まだ始まって半年も経っていないので、なかなか成果としては調査から始めていますというところなんですけど、今年 4 月以降の活動にもつながってまいりますけれども、できるだけカルチャーを街にしみ出させるというのをやって、エリアとしての認識、カルチャーあるんだろうというのを、地域の人にもあるいは訪れる観光客にも知らせていきたいなという風に思っています。オンラインも大事なんですけれども、やっぱり街を歩いていて、カルチャーがどこにあるのかっていうのは、渋谷は広告ばかりでわからないという課題もあるかなと思うので、色々な交渉が必要ですけども、こういったサイネージをうまく使ったものであるとか、あるいはこういうアナログのボードにポスターを貼れる場所を作るとか、チラシを置く場所を作るとか、そういった形でリアルな場所に文化コンテンツを表現できる場所というのをつくっていききたいなという風に思っています。

先ほどどういうナイトカルチャーがあるんだろうというのを可視化して回遊を促進する、というお話しをしたんですけども、まだ実現はしてないのですが、一つ参考にしているのがこのモントリオールの事例になります。モントリオールはですね、やっぱりクリエイティブ産業のメッカとして国際発信されていて、それをどうやって訪れる人へ、観光客も含めて知らせているかという、街自体をショーケースの場として使っているというところがあります。色々なクリエイターやテクノロジーを使ったアート作品を街に点在させたり、あとはカルチャーディストリクトみたいなものを赤の点でアイコンにして、街にもこのような投影を行って、実際に歩いている人たちが私たち文化ディストリクトにいるんだというのを感じてもらって、そんな取り組みをモントリオールではやられています。こういったハコの中と外の染み出し、その辺の関係性をうまく作っていくというのを回遊策としてできたらいいかなという風に思っております。どのぐらいの

広さでそれができるんだろうとか、色々これからのシミュレーションにはなるんですけども、例えばイルミネーションの時期などで、もう既にある程度導線が作られているところ、ただ、うまく回遊が促進できていないような場所、あるいはナイトタイムエコノミーの集中してあるような場所をうまくネットワークできるような形で、導線に何かしら光の演出みたいなもの、あるいはアート作品を置くとかということをやうまく連携しながらやっていきたいなという風に思っています。この辺は東京都さんの文化芸術祭なども同じような時期に渋谷・代々木エリアで展開されるので、うまく色んなものと連携しながら地域を盛り上げていけたらなという風に考えています。ただ警察とか、色々なところとの交渉が必要ですので、これが全部できるわけではないんですけども、モンリオールではこういう事例もあるので、サイネージとか色々なものを使いながら、この場所に繰り広げられてるものを感じてもらいたいなということをやしていきたいなという風に考えております。

そして、モンリオールでも手がけていたんですけども、年間を通じて何かしらイベントをやっている状態というのをどうやって作っていくかというのも、この中でやっていきたいなと思っています。これも色々な候補がありまして、実際に招致できるものというのは本当にわずかになってくるかなと思うんですけども、過去色々な団体が渋谷でやりたいなといっても場所の提供とか手配とか、色々なところとの交渉というのがなかなかうまくいかないっていうところがあったので、少しこのディストリクト構想の中で具現化できるように、そして年間のイベントカレンダーのようなものができて、こういったイベントを招致できると、必然的に夜の街に皆さん、アフターパーティーのような形で繰り出していくので、18時から朝の6時までの間のイベントの活性化というのが試みられるんじゃないかなという風に感じております。

そして、自主事業として、東京都国際文化芸術祭との連動をしながら、あるいはイルミネーションと連動しながら、我々の事業もこの辺で、街の装飾も含めて、あるいははしご酒のような形で回遊の促進をやりたいなという風に思っております。

今のところが、大体の事業の中身になっているんですけども、ちょっとだけ今後の未来というところをお話しさせていただきたいなと思います。モンリオールの素晴らしいところは、地域の色々なアトラクションをつくっていくというのももちろんなんですけれども、それ自体が産業になってるところが素晴らしいなと思っています。私も一度だけ何年も前になるんですけども、行ったことがあるんですが、こういったそういう装飾とか、あるいは音楽を手がけている方、あるいはクリエイターの方、PAの方、色々な方がナイトタイムで働かれていると思うんですけども、そういった事業者の人達が一堂に会して、集まるような商業イベントのようなものをやられています。これは年一回なんですけれども、そこでどういった音楽を提供しているのかとか、どういう新しいテクノロジーがあるのかとか、色々な業界で新しいことをやったものを、皆さんと共有する。そしてこう 1on1 で面談したり、カクテルイベントとかアフターパーティーをやって業界全体が盛り上がる、そしてそれが観光にもつながるというような形で、BtoB や toC というところを混ぜながら成長していくモデルというのをビジョンとして作れたらいいかなという風に思っています。ですので、観光施策として始めるんですけども、それが産業の育成だったり、あるいは文化の政策につながったり、見に来る人が楽しんでもらうことにつながったり、そしてそれが、教育にもつながるというようなことをうまく広げて考えていきたいなというふうに思います。特に、実際に音楽に興味ある子どもたちが、ナイトタイムの繰り広げられてる土地に住むことで、色々なカルチャーの刺激を受けて成長する、渋谷の子どもの文化にもつながっていくみたいなことで、地域の魅力自体も上がっていくというような形で展

望を作っていけたらなという風に考えております。ということで、文化とか暮らしとか、そして街の景観を考えながら、ナイトタイムの推進というのをやっていきたいなという風に考えております。

最後に、こんなことを考えながら協議を進めていくというような形になるんですけども、今、1年半ぐらいのプログラムで東京都と伴走支援いただきながら進めておりますけれども、課題もあります。一つが実際に補助をいただいてサポートいただいた後、その後どうやってこれを継続していくのかというところが非常に大きい課題かなと思っています。この辺は完全に依存する形じゃない方法でモデルづくりをしなきゃいけないというところがあります。

それに関連してなんですけれども、これを誰がやるのがいいのかというところは非常に悩ましいところなんです。行政の中にこういったことを手がける部署があるかというところはないです。ナイトタイムに特化した部署とか、そういうものは持っていませんし、やっぱり皆さんがこう事業者の皆さんも事業をやりながら片手間でやらなきゃいけないというところで、誰が主体になるのかというところは、非常に課題かなと思っています。ここの負担が集中してしまうとサステナブルにつながらないので、どうやってこう参画するメリットを色々な事業者と一緒にやっていくのかということであるとか、あるいはデジタルをうまく活用しながら、負担を最小限にとどめながら、事業を行えるような、そんなスキームをつくっていかなきゃいけないのかなということで、答えはあまりないんですけども、この辺が課題かなというふうに思っています。ありがとうございました。

以上が、ナイトタイムの観光施策の渋谷区の取り組みとなっております。何か御参画いただけたら、ご協力いただける方がいたら、お気軽にお声がけいただければと思いますので、引き続きよろしくお願い致します。ありがとうございました。